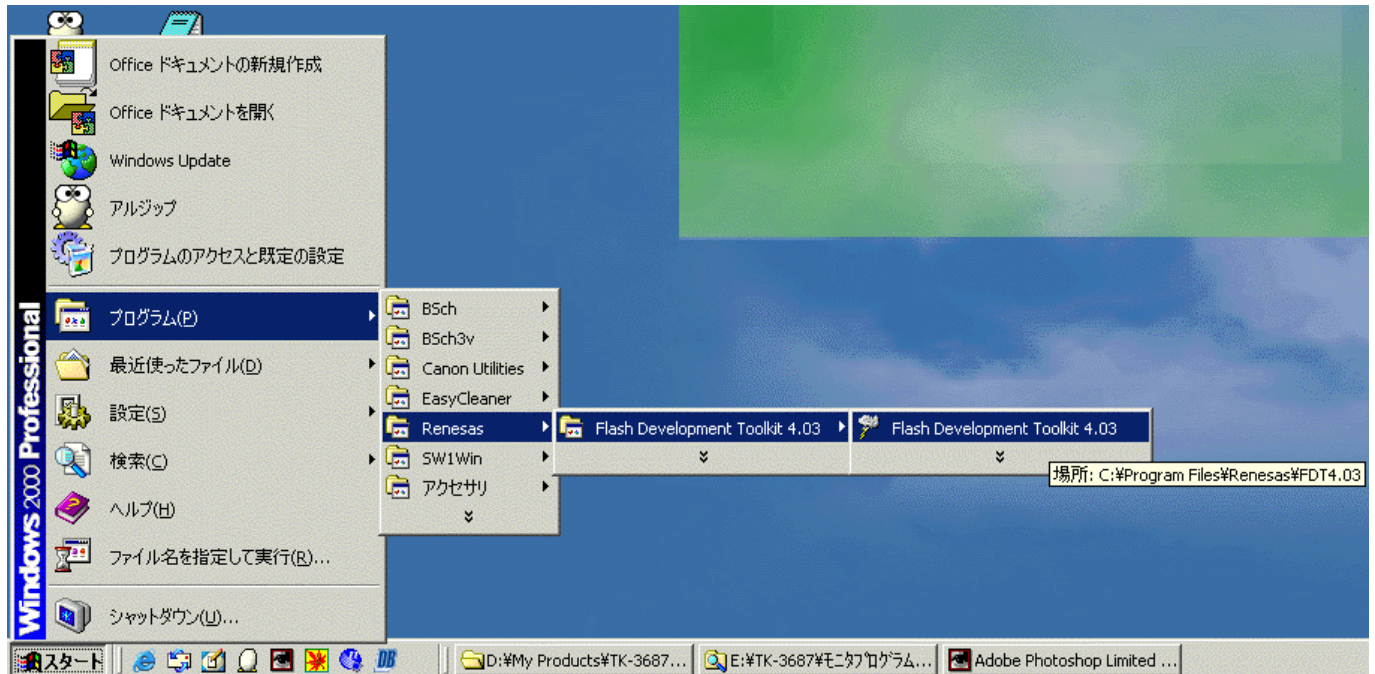


モニタプログラムの書き込み手順書

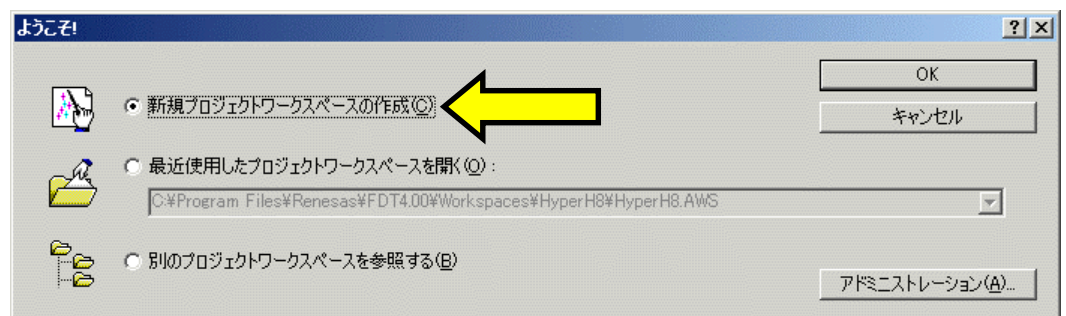
H8 書き込みツール“Flash Development Toolkit (FDT)”を用いて FDT のセッティングからモニタプログラム書き込みまで、順を追って説明していきます。

FDT のセッティング(ワークスペースとプロジェクトの立ち上げ)

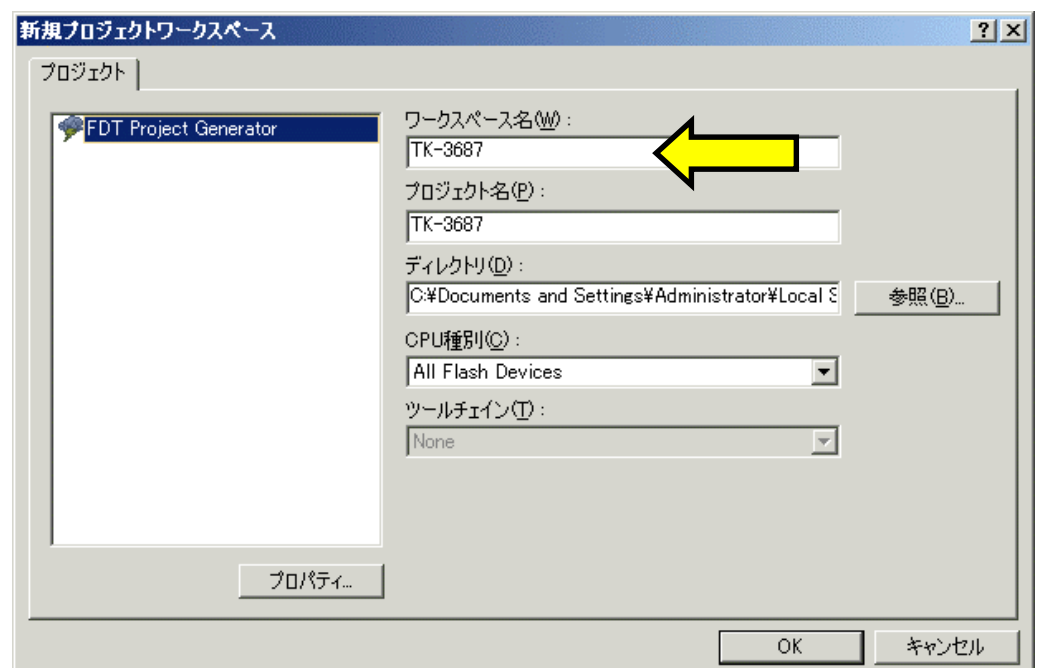
1. スタートメニューから“Flash Development Toolkit 4.03”を起動します。



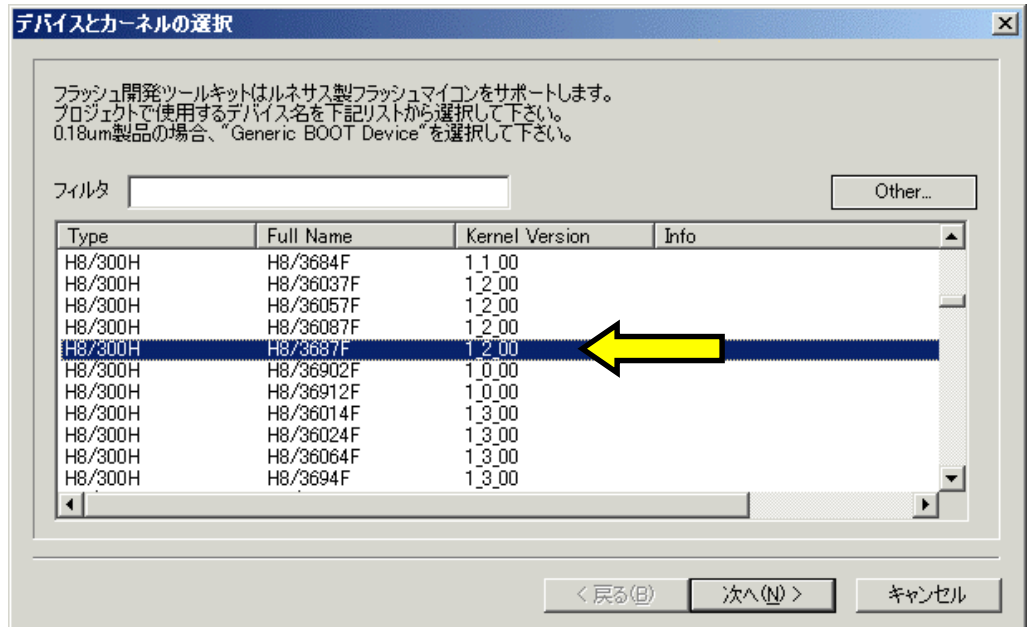
2. 右図のようなダイアログが開くので、“新規プロジェクトワークスペースの作成(C)”を選択して「OK」をクリックします。



3. “ワークスペース名(W):”を決定します。名前は自由に決めて結構です(ここではTK-3687としています)。“プロジェクト名(P):”は自動的に入力されます。またワークスペースを作成するディレクトリを指定したい場合は“ディレクトリ(D):”の「参照(B)」をクリックしディレクトリを指定して下さい。よければ「OK」をクリックし次へ進みます。



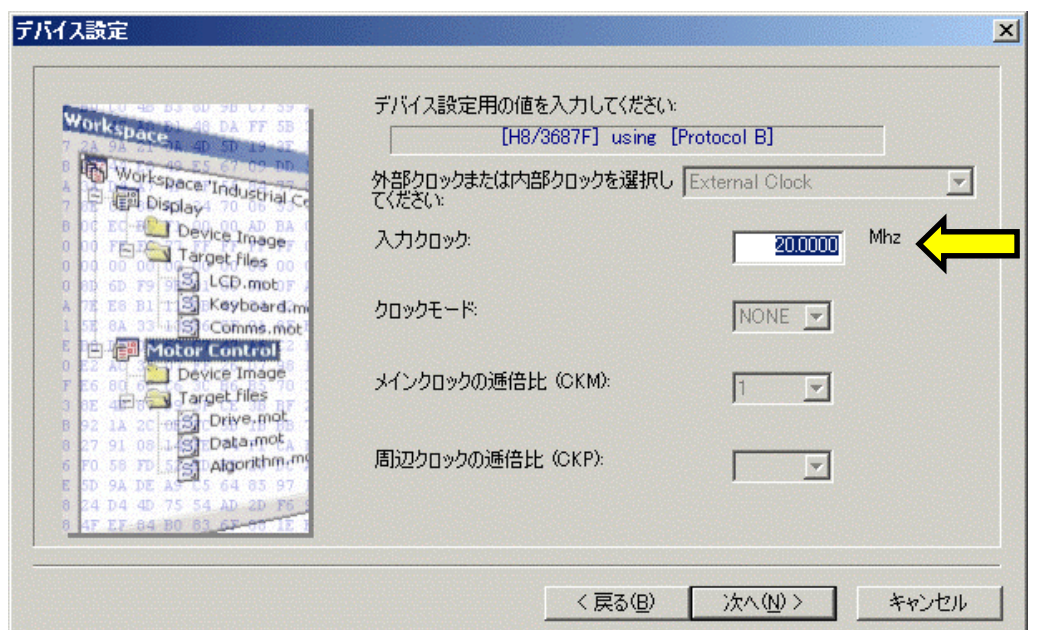
4. デバイスを選択します。“H8/3687F”を選択し、「次へ(N)」をクリックします。



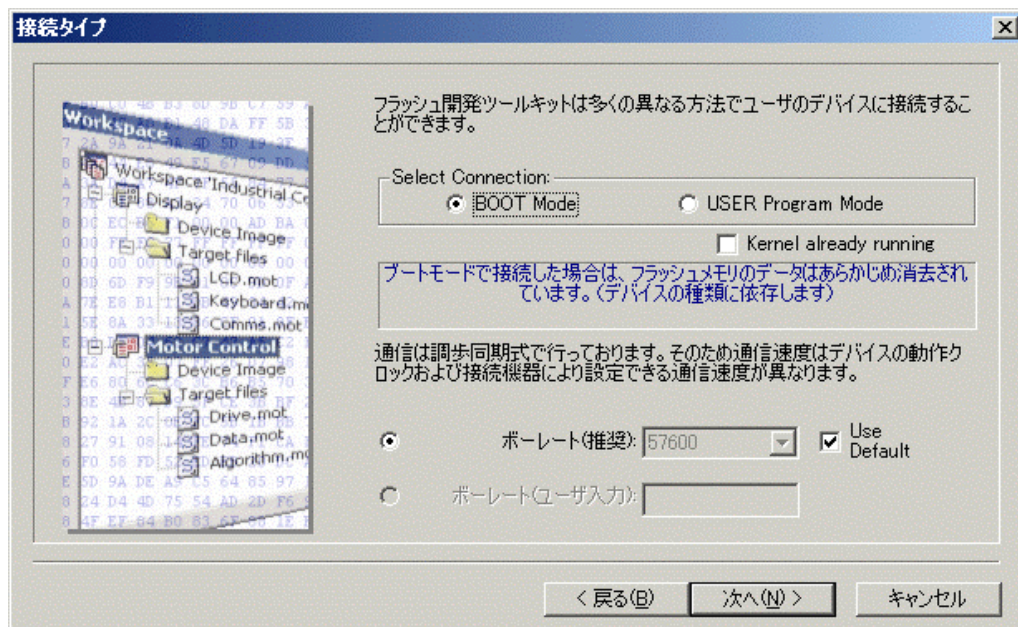
5. 使用する Com ポートを選択します。“Select port:”で接続する Com ポートを選択し、「次へ(N)」をクリックします。



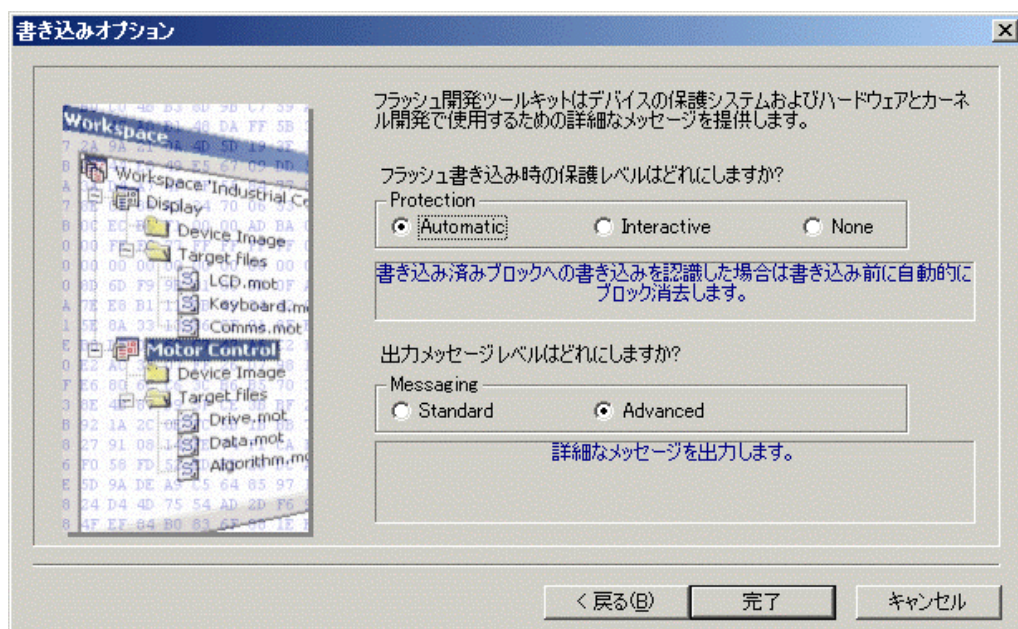
6. CPU のクロックを入力します。“入力クロック”の欄に実装されているクロックの周波数“20.0000”MHzを入力し、「次へ(N)」をクリックします。



7. この後出てくる項目は入力・変更の必要はないので「次へ(N)」をクリックします。

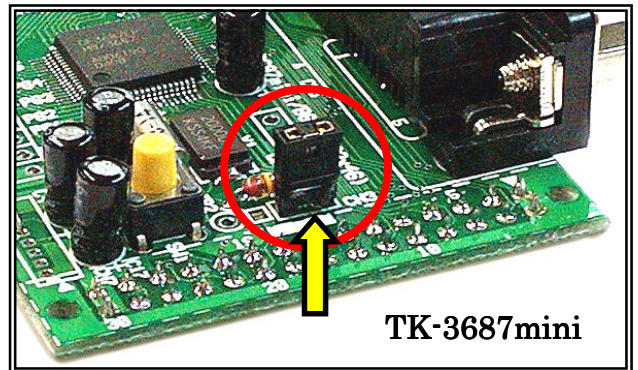
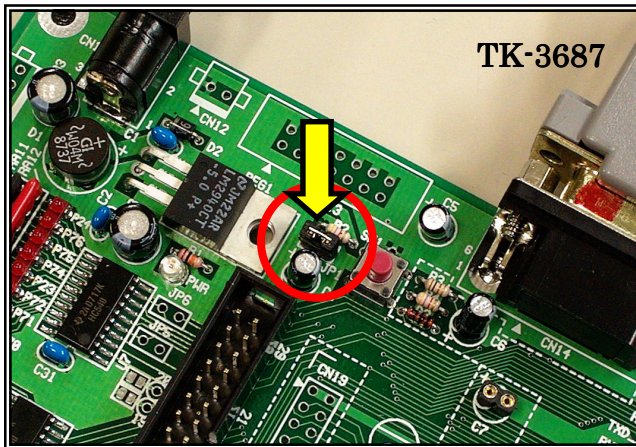


ここも変更はないので「完了」をクリックします。以上でワークスペースとプロジェクトの立ち上げは完了です。

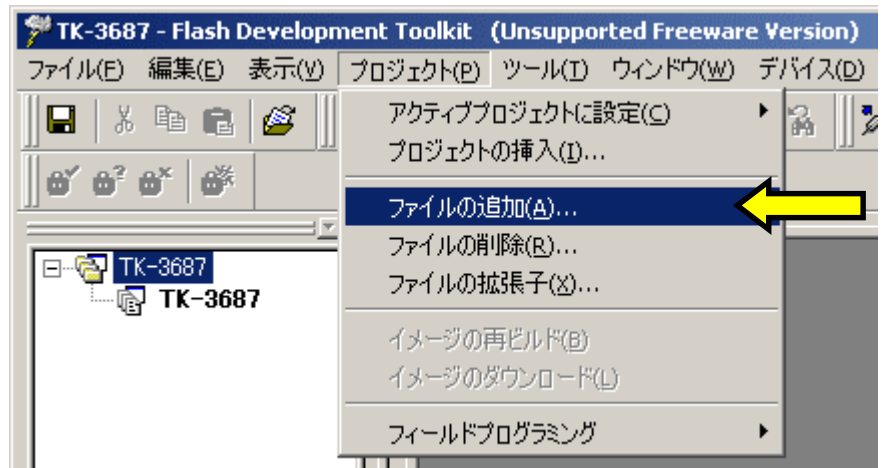


モニタファイルのダウンロード

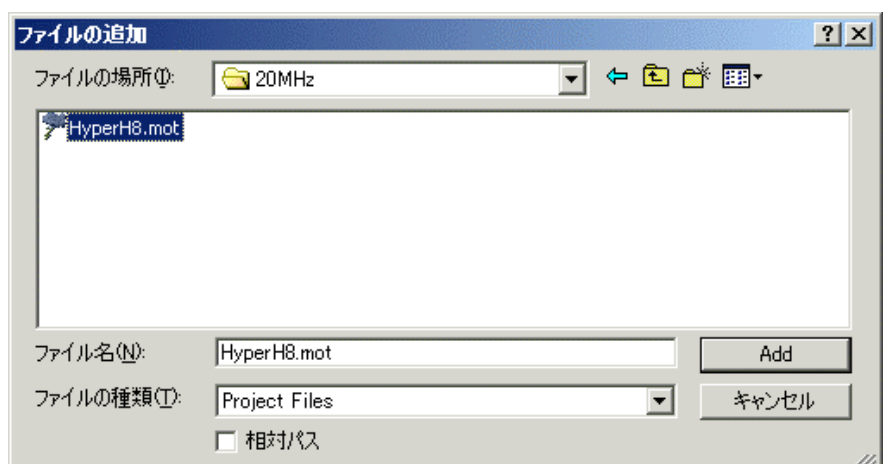
1. まず TK-3687/TK-3687mini とパソコンとを接続します。基板上のジャンパ・JP1 をショートし、RS-232C ケーブルでパソコンと接続し電源を投入します。ファイルをダウンロードする為に CPU をブートモードで起動しなくてはならないのですが、TK-3687mini はブートモードで起動する為に必要な P85 のプルアップ抵抗が入っていません。そこでブートモードで起動する為に電源を入れたら2, 3回リセットスイッチを押して下さい。



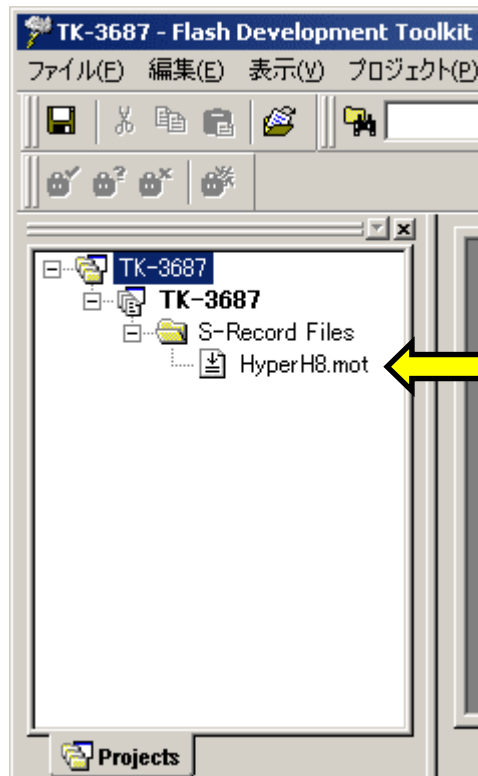
2. 次にダウンロードするファイルをプロジェクトに追加します。メニューバーから“プロジェクト(P) > ファイルの追加(A)...”を選択します。



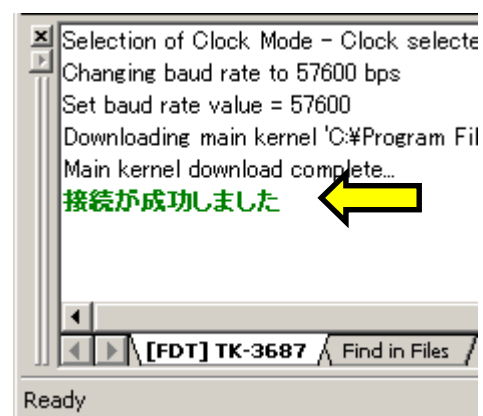
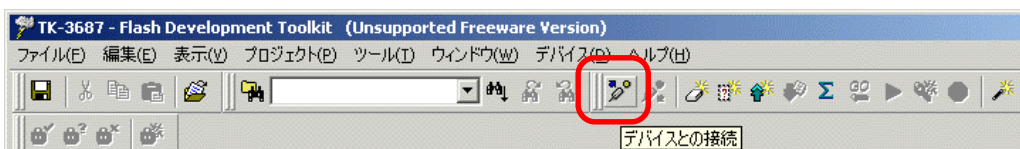
3. モニタファイル 'HyperH8.mot' を選択します。モニタファイルは製品に付属している CD-ROM に収録されています。
「CD-ROM¥TK-3687¥モニタフﾟログラム ¥20MHz¥HyperH8. mot」
但し CD-ROM に収録されているモニタファイルはご購入時でのバージョンですので、最新版を web からダウンロードする事をお勧めします。弊社ホームページよりダウンロードして下さい。
モニタファイルを選択したら「Add」をクリックして下さい。



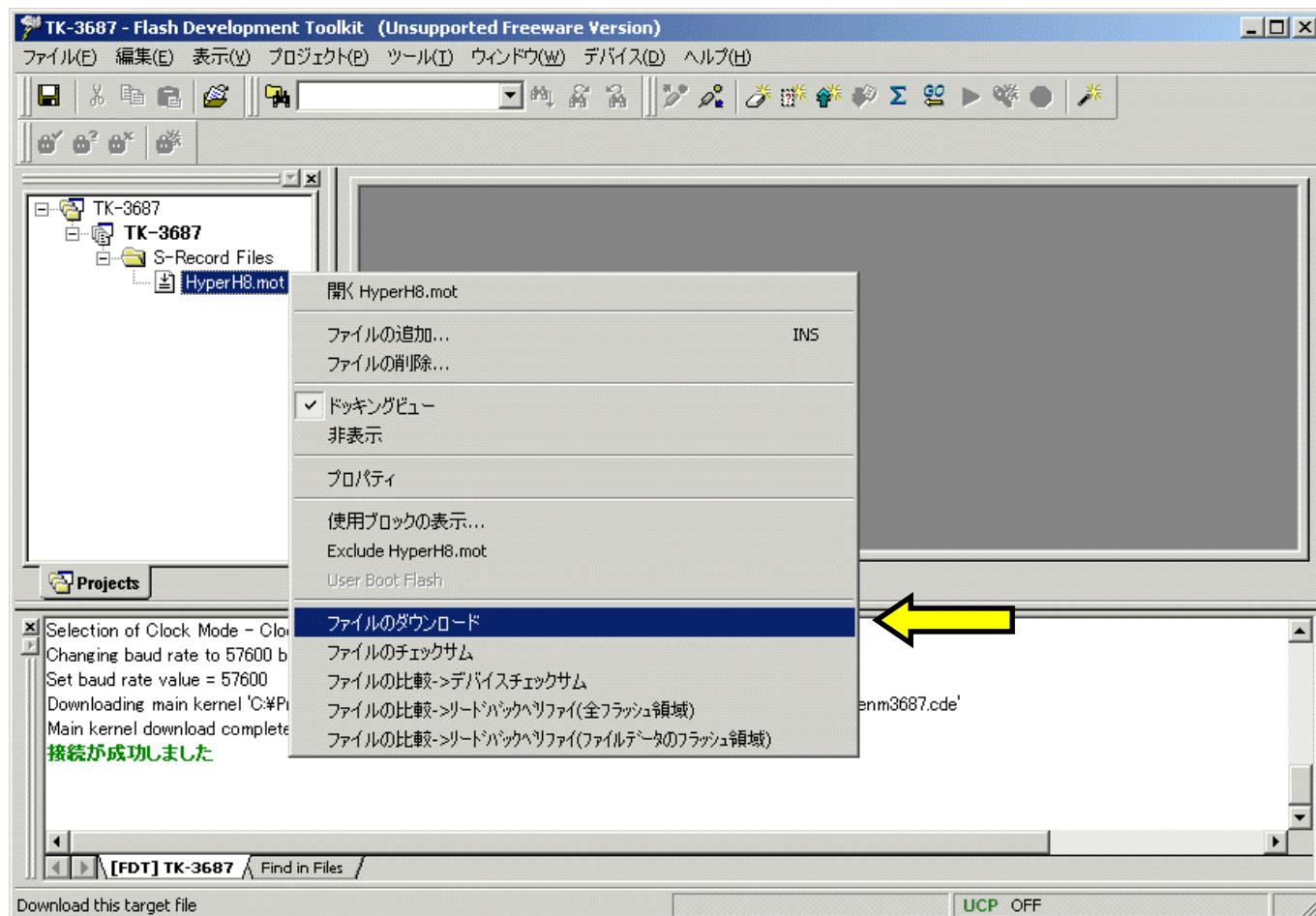
4. 以上でファイルが追加されました。画面左のルートディレクトリ内“S-Record Files”に選択したモニタファイルが追加されたのを確認して下さい。



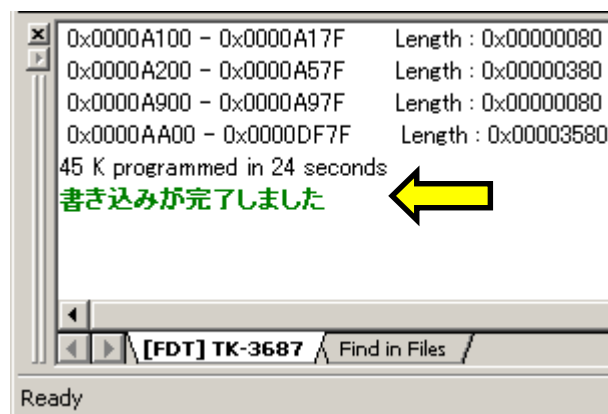
5. FDTとH8/3687を接続します。ツールバーの“デバイスとの接続”をクリックします。「接続が成功しました」というメッセージが表示されれば接続完了です。



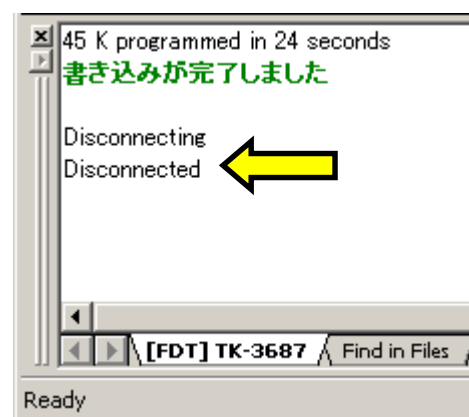
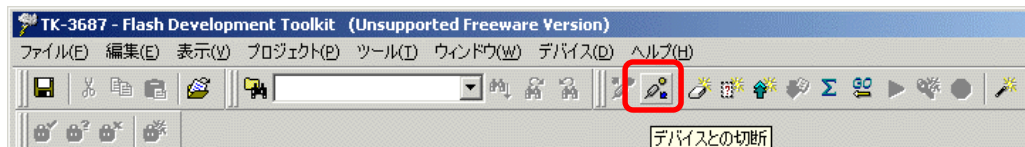
6. モニタファイルをデバイスへダウンロードします。追加されたモニタファイルを右クリックし、“ファイルのダウンロード”を選択すると、ダウンロードを開始します。



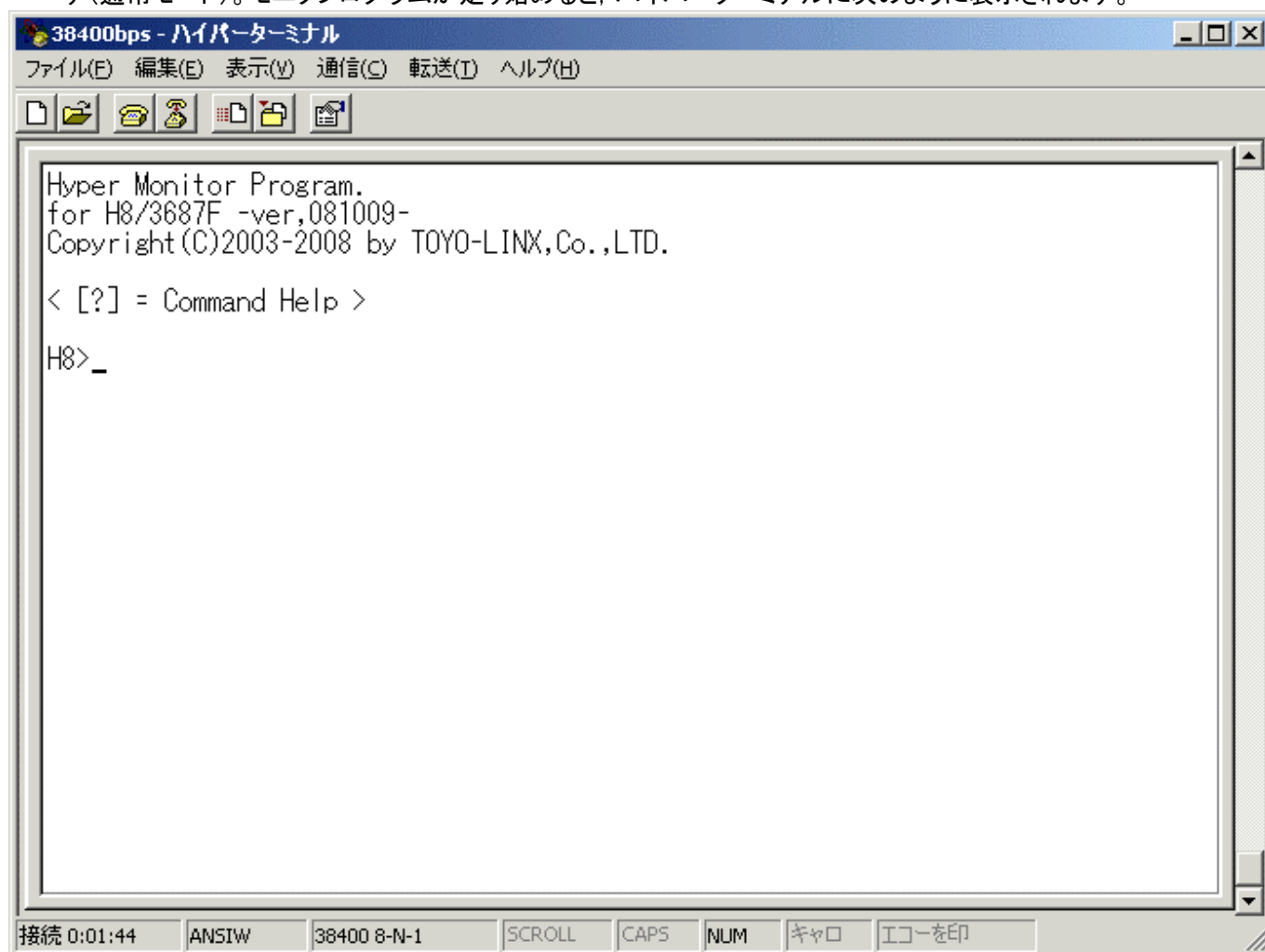
7. 右図の“書き込みが完了しました”のメッセージが表示されれば終了です。



8. FDT と H8/3687 の通信を切断します。ツールバーの“デバイスとの切断”をクリックします。「Disconnected」というメッセージが表示されれば完了です。



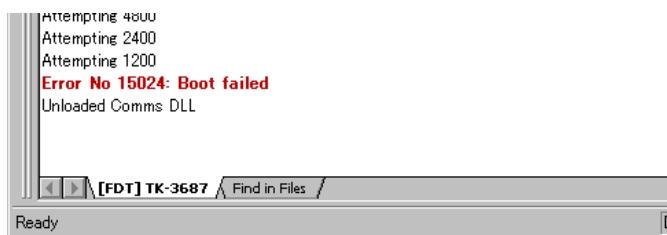
9. 先程ショートしたジャンパ・JP1を外し、リセットスイッチを押して下さい。ダウンロードしたプログラムが走り始めます(通常モード)。モニタプログラムが走り始めると、ハイパーターミナルに次のように表示されます。



10. 次回はワークスペースを作成したディレクトリ内にある“TK-3687. AWS”をダブルクリックすれば、ここで設定した状態で起動します。

うまく書き込めないときは、

書き込み完了のメッセージが出ず右図のような“Boot failed”が表示された場合は次の事を確認して下さい。



1. ハンダ付けした部品の確認

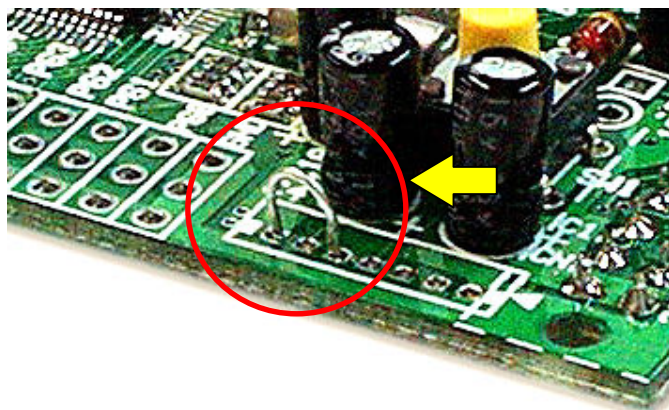
取り付けた部品をもう一度確認しましょう。部品の極性やハンダ付けが上手にできているかよく確認して下さい。特にレギュレータを逆に取り付けてしまうと全く動きません。また、電源コネクタの向きも注意しましょう。コネクタは逆になっていませんか？

2. 部品、ハンダ付けの確認で問題なければ次の手順を試して下さい。

“Boot failed”が表示された場合は再度リセットスイッチを押して、4頁の操作を行なって下さい。繋がるまでリセットと4頁の操作を行ないます。TK-3687miniで、もし4～5回行っても繋がらない場合は次の処置を行なって下さい。

まず、一旦電源を外します。次に基板右下にあるCN7の5番と7番を抵抗のリードなどを差し込んでショートさせます(三角印のある方が1番・右図参照)。後で外すのでハンダ付けは不要です。

差し込み終わったら再度電源を入れ、4頁の操作を行なって下さい。“書き込みが完了しました”のメッセージが表示されれば終了です。先程ショートしたジャンパ・JP1とCN7・5番-7番を外し、リセットスイッチを押して下さい。ダウンロードしたプログラムが走り始めます(通常モード)。



以上の事を行っても動作しない場合は、弊社までご連絡願います(連絡先は巻末に掲載しています)。

★お問い合わせはメール又は FAX でお願ひ致します。

(株)東洋リンクス

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-2-2 朝日ビル
TEL: 03-3234-0559 / FAX: 03-3234-0549
URL: <http://www2.u-netsurf.ne.jp/~toyolinx>
E-Mail: toyolinx@va.u-netsurf.jp

※本書の内容は将来予告無しに変更することがあります(2009年5月作成)